



院外版

TSUYUKUSA

年頭所感

院長 柿木 滋夫



新年あけましておめでとうございます。令和になり初めて迎えるお正月ですがいかがお過ごしでしたでしょうか。

まずは、昨年も台風19号により多くの災害が発生し、95人の方々がお亡くなりになり、いまだ多くの人たちが避難生活をされていることに心よりお見舞い申し上げます。今年はそのような大規模災害が起こらないことを念じないわけにはいきません。

さて、当院では一昨年7月より分娩が再開され昨年末までに120名以上のベビーが産まれました。令和元年は日本全体では約86万4000人のお子様が産まれましたが、それでも少子化が想像以上に進んでいるようです。その中で、今年も当院では安心安全なお産に心がけ小樽・北後志地域の安定自立圏構想に寄り添っていきたいと思っております。また今年も、日本機能評価機構の受審があります。全職員「one team」となって取り組んでいきましょう。また、小樽協会病院開設96年目となりますが、100周年へ向けて地域に根差した医療を展開していきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今年も東京オリンピック、パラリンピックや嵐の解散もあり、札幌ではマラソン、競歩が行われます。また本年の干支は「ねずみ」です。ねずみ年は新しい運気のサイクルの始まりで、未来への大いなる可能性を感じさせます。「ねずみ算」という言葉があるほど子孫繁栄の象徴でもあります。

人口減少が顕著な小樽ではありますが、市民に寄り添いながら良質な医療の提供を心掛けていきますので今年もどうぞよろしくお願いいたします。最後になりますが、インフルエンザなどの感染症が流行していますが身体に気を付け今年が皆様にとって良い年となることを願って新年のあいさつといたします。

2020年度 新年挨拶

看護部長 松野 千代美



令和になり、最初の新年を迎えました。皆さま、今年もどうぞよろしく
お願いいたします。

平成31年4月の人事異動により、看護部体制は変化しました。それに
伴い、『地域のニーズをとらえ、一人ひとりに寄り添う看護』を新たな
看護部理念とし、看護部全体で取り組んでいます。この理念は、「小樽協
会病院看護部は、患者さん、ご家族が、より健康でその人らしい暮らしが
できるために、地域の特性や変化を敏感にとらえるという役割をもってい
る。そして、一人ひとりに寄り添うことにより医療・介護・生活へのニーズを深く知り、看
護を实践する。」という課題と目的を表わしています。しかし、看護部だけでは理念を達成
し得ることはとても難しく、病院組織全体の多職種との共有、連携、調和が重要であると実
感しています。特に、昨年9月の電子カルテ導入という病院全体での大きな取り組みにお
いても、職員が一丸となり患者さんの安全と円滑な診療の実現が果たせたと思います。

今年も、多職種の皆さんとの意見交換や検討を大いに重ね、看護部の理念達成に向けて尽
力したいと思います。どうか、忌憚のないご意見をお寄せください。お待ちしております。

年頭ご挨拶

事務部次長 兼 事務部長代理 加納 武敏



あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに
新年を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。

国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の地域別将来推計人
口（平成30（2018）年推計）」によると、2045年の小樽市人口は
60,424人と推測されており、2015年に10万人以上の人口を有した
全国の自治体の中でも減少率はかなり上位（10位以内）に入っていると
報告されています。こうした中、厚生労働省は病床機能分化と地域連携
を図る地域医療構想議論を活性化させるため、公的病院の急性期医療に係る診療データを昨
年9月に公表しました。対象とされたのが公的医療機関のみだったことや公表の方法等に
賛否両論あるとは思いますが、地域の医療事情を知るうえで非常に重要なデータであること
は間違いありません。超高齢化と著しい人口減少という社会問題を鑑みつつ、地域医療構想
の病床機能分化の議論の加速も予想され、本質的な「地域医療構想元年」と言っても過言で
はないように思います。また本年は医療機関にとって重要な意味を持つ2年に1度の診療報
酬改定の年でもあります。本体は働き方改革対応分としてプラス改定とされていますが、薬
価を含めたトータルではマイナス改定と発表されており、当院の運営にも大きな影響を及ぼ
しかねません。このように置かれている環境はやや向かい風の情勢ではありますが、私たち
は地域に求められる医療機能を追求し、地域から必要とされ、「良質で心のかよった優しい
医療」を提供できる病院を目指し、職員一丸となって取り組みを進める所存でございます。
本年も変わらぬご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第32回地域連携シンポジウムを終えて

令和元年12月5日小樽協会病院講堂にて第32回地域連携シンポジウムを開催いたしました。市内近郊の開業医の先生方のご出席を賜り、47名ものご参加をいただきました。今回のシンポジウムは『循環器内科と外科のコラボ』というテーマで手稲溪仁会 心臓血管外科の山田 陽先生をお招きし、当院診療部長の高木先生が座長を行ないました。



当院循環器科 長井先生から「急性心筋梗塞の機械的合併症例」という緊急手術を要する患者さんの症例提示を行いました。心室中隔穿孔という比較的稀な合併症ではありますが、合併症が起こると内科的なコントロールが困難となり外科的な治療が必要とのお話でした。

2例目は当院循環器科 前川先生からの「TAVI(経カテーテル的大動脈弁植込み術)症例」の提示でした。小樽での高齢化率は全国的にも進んでいるため、高齢者の弁膜症、特に大動脈弁狭窄症は著しく増加しています。高齢のため開心術が難しい場合、カテーテルによる大動脈弁の植え込みは負担軽減が望めます。手稲溪仁会病院はTAVIの施設認定を受け、症例を積み重ねている施設です。

当院循環器科 山田先生からは「当科からの外科依頼」というテーマで協会病院から心臓血管外科に依頼した最近の統計についての発表でした。年間50件程度は心臓血管外科へ紹介しており、当院の動向としては緊急症例も含めて、冠動脈バイパス術・弁膜症については手稲溪仁会病院、大動脈疾患は小樽市立病院への紹介率が高い傾向です。



手稲溪仁会病院 心臓血管外科 山田 陽先生からは、当院から紹介の多い疾患の治療経過の手術ビデオも提示いただきながら、「院外ハートチーム～小樽協会病院循環器科との連携～」というテーマでご講演いただきました。病院同士の垣根を越えて循環器内科と心臓血管外科で連携をしていくことは非常に重要なことであり、そのために常日頃から関係を構築していき、相談をしやすい状況を作ることが大切であるとお話をいただきました。

当院のような心臓血管外科のない病院では、内科的な治療が行き詰る症例もあり、心臓血管外科の先生に気軽に相談できることは精神的な助けになっており、速やかに治療方針が決定することは患者さんのメリットも大きいと思います。手稲溪仁会病院の心臓血管外科の先生とは定期的に院外カンファレンスをさせていただき、その後にささやかですが親睦会も行っております。今後も良好な関係を維持していきたいと考えております。

今回、他講演と重なっておりましたが当院シンポジウムにお越しいただいた各医療機関の先生方にお礼申し上げます。次回もプログラムが出来次第、ご案内させていただきますのでどうぞご参加ください。



お産の安全と医療チームをつなぐシミュレーション教育

北海道社会事業協会小樽病院産婦人科 黒田 敬史



当院で迎えるお産が妊婦さんにとっても職員にとっても安心して安全なものであるように、分娩再開とともに産科で推進しようと心に決めていたものの一つに「シミュレーション教育」があります。実臨床で場数を踏んで分娩に慣れることが難しい時期に、座学と臨床の間をつなぐシミュレーション教育が正常・異常分娩の流れの確認や周産期緊急への対策につながるに違いないと考えました。その一環として、2019年8月、当院でALSO（Advanced Life Support in Obstetrics）コースを開催しました。

ALSOは産科医や助産師を主対象としたアメリカ発祥のシミュレーション教育コースで、10年前にはすでに世界50カ国以上でコースが開催され、日本でもこれまでに開催数400回、受講者数1万名を超えるほど全国的に浸透した講習会です。コースの2日間、講義では医療安全やチーム医療の重要性が強調され、実技では「吸引分娩」「肩甲難産」「分娩時異常出血」「妊婦心肺蘇生」などいつ陥るかわからない妊産婦の急変に対し、コミュニケーションスキルを用いてチームを円滑に展開するトレーニングを徹底して行います。

これまで北海道ではアクセスの問題やインストラクター不足のためALSOの定期開催が一時途絶えていましたが、2018年9月6日に起きた北海道胆振東部地震の復興支援を目的として、ALSOを運営するNPO法人「周産期医療支援機構(OPPIC)」が主催、北海道社会事業協会・小樽市医師会が共催となり、2018年に分娩再開を果たした小樽協会病院もが支援されるような形で、当院が北海道でのALSO開催復活の舞台となりました。

コースは道内勤務者優先の受講生40名中に当院職員5名が参加し、講師陣も含めて80名を超えるメガコースとなりました。シャイな北海道民の受講生、そして膨大な予習量に驚愕していた当院職員が、コースの勢いに馴染んでくれるか始まる直前まで心配していましたが、会が進むにつれ全グループが打ち解けあってグループワークや実技に取り組んでいる姿は、数ヶ月間準備に苦心した会場責任者兼コースディレクターとして感慨深いものがありました。この学びを職員の周産期スキル底上げとチームビルディングに活かしてこそ開催の意義があるというものなので、ハイリスク対応までを見据え働きかけの手を緩めずに進めたいと考えています。

さらに今回はコース内で市民無料公開講座形式の周産



期災害対策特別講座を開催し、小樽後志の関係者にも広く聴講いただく機会を用意しました。講演では岩手県立大船渡病院の小笠原敏浩先生と岡山大学の牧尉太先生から、平時に遠隔医療や周産期救急の情報収集に活用されていた周産期医療情報システムが、各地域で地震や洪水が発災した際にいかに妊産婦の実態把握に貢献したか、また今後の災害に備えてどのような対策が必要かについて臨場感満点で教えていただきました。救急隊員・助産師・保健師や小樽市内外の行政関係者の方に多く参加していただいたので、まずは妊婦が災害時要支援者であることを市民に認識してもらうための基盤づくりのきっかけになってくれればと思っています。

2018年7月に再開した当院での分娩は、おかげさまで2018年には39例、2019年には113例の出産に恵まれました。

新生周産期チームの体制構築は想像していたものよりもはるかに難しく、本来の地域貢献の形となるまでにはまだ時間を要していますが、1例1例確実に安全にお産を積み重ねていくことが地域への理解や信頼回復につながるものと思っています。



余市協会病院での助産師外来開設



小樽協会病院へ通院される妊婦さんは、小樽市内からだけではなく、余市・赤井川・仁木・古平・積丹・共和・岩内・ニセコなど広く後志管内からお越しになります。分娩再開1年のお産の約2割は小樽市外の後志町村にお住いの方、または里帰りをされた方でした。妊娠初期からお産まで14~15回もの受診が必要となる妊婦健診において、遠方さらには冬

季節間の通院アクセスの負担を少しでも軽減し、ゆっくり助産師と相談をしていただけるよう、2019年11月より余市協会病院で『助産師外来』を開設いたしました。

助産師外来では、『小樽協会病院の妊婦健診に通院されているローリスクの妊婦さん』を対象に、妊娠26~34週までの期間、小樽での妊婦健診と交互に行うように予定を相談しています。余市協会病院での開催日は月2回、水曜日の午前中となっています。健診内容は小樽協会病院で行うものと変わらず、尿検査や血圧・体重測定・胎児モニタの他、当院で修練を受けた助産師が超音波検査を行います。『お腹がはる』『出血がある』などの症状がある場合には、同日や近日中に小樽協会病院への受診をお勧めすることがありますのでご了承ください。この余市で行う助産師外来の一番の魅力は、ゆっくりと保健指導に時間を使えることだと考えています。お時間の許す限り、妊娠中の悩みなどのご相談にいらしてください



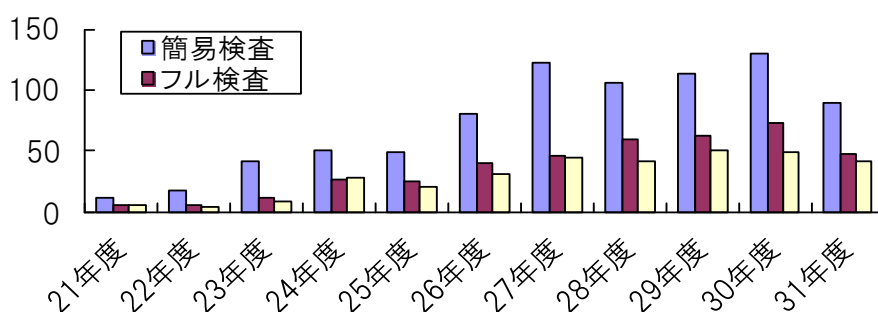
睡眠時無呼吸検査（PSG）のご案内

当院では、平成 26 年 12 月 20 日より呼吸器科にて睡眠時無呼吸専門外来を開設いたしました。現在(令和元年 12 月末)では外来で行なう睡眠時無呼吸簡易検査を行った患者数は 642 名になり、1 泊 2 日で行なう睡眠時無呼吸精密検査の患者数は 328 名になり、その後、器械導入し外来フォロー患者数は 240 名になります。睡眠時無呼吸検査は徐々に知られた検査となってきました。小樽協会病院では、ホームページや市民公開講座、講演会、院内の外来に設置してあるモニター



案内を行い、より多くの方に睡眠時無呼吸検査を知ってもらえるよう努めています。睡眠時無呼吸検査には簡易検査と精密検査があり、基本はまず簡易検査を行なって頂き、その結果により精密検査を行う必要があるかを決定します。簡易検査は外来受診時に装置の取り付け方法の説明を受け、ご自宅で就寝前に装着してもらい検査を行います。翌日、装置を病院に返却して頂き後日、

外来受診となります。精密検査は一泊入院していただき、装置を装着させてもらい検査を行います。翌朝、装置を外して帰宅となります。検査による侵襲的なことは一切ありません。



精密検査では、主に睡眠時

の低呼吸・無呼吸の回数や時間、また血中酸素飽和度の低下、脳波やいびき等を詳しく調べます。検査の結果は最短でも一週間程かかりますので後日、外来受診して頂きます。

検査の結果、低呼吸・無呼吸が基準の指数を超えた場合、器械の導入を奨めています。この器械とは、鼻にマスクを装着し、睡眠の際に空気が送気される器械を置き、睡眠してもらうようになります。

睡眠に様々な悩みを持たれている方は、未だに多いと思います。『夜に苦しくて目が覚める』『近親者に言われて気がつく』『日中（運転中や工作中）の眠気』等、またはこれ以外でも睡眠への悩みや不安をお持ちの方は、睡眠時無呼吸専門外来を受診、ご相談されてはいかがでしょうか？

また、企業や個人での睡眠時無呼吸検査だけの健診も積極的に行っております。睡眠時無呼吸検査を受けたい場合は健診係までご相談ください。

～お気軽にご相談下さい

- ・ 受付電話 0134-23-6234 FAX 0134-33-7752
- ・ 受付時間 月曜～金曜 8：30～16：50
土曜 8：30～12：00
- ・ 受付窓口 小樽協会病院 医事課 健診係

当院では院内でのホルター解析を平成 26 年から行っています。解析機器は日本光電長時間心電図解析装置 Cardio REV DSC-3300 を使用しています。現在は岩内協会病院、余市協会病院、洞爺協会病院の協会 3 病院の他に市内の個人病院様からのホルター受託解析もしています。



安静心電図では捉えられない変化をホルター心電図では捉えることが可能です。

ホルター心電図の目的として

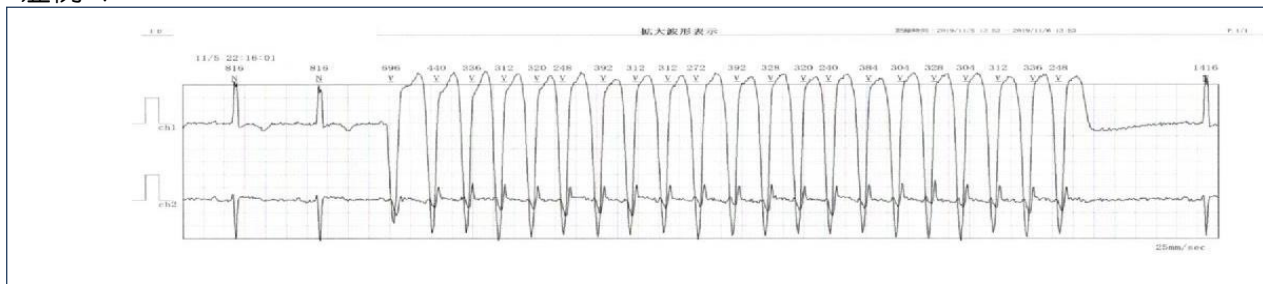
- ①自覚症状と心電図変化の関係
- ②不整脈の検出と重症度評価
- ③不整脈の治療後の定期チェック(抗不整脈薬の薬効評価やアブレーション治療後の評価)
- ④心筋虚血の検出とその重症度評価(特に冠攣縮性及び無症候性心筋虚血の診断)
- ⑤ペースメーカーの作動評価
- ⑥心拍変動による自立神経活動評価

などがあげられます。

当院では解析後に緊急性の高い異常があれば担当医師(委託病院様)に速やかに連絡しています。受託ホルターについては柿木院長のコメントをつけて返却しています。

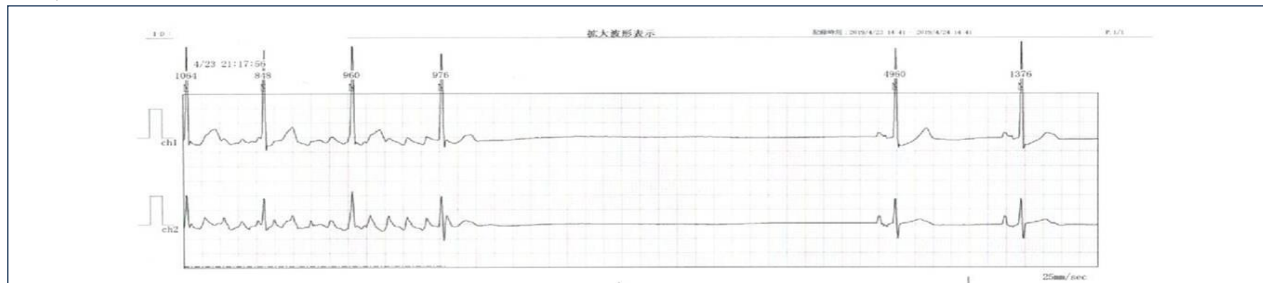
現在ホルター解析は、日本臨床検査技師会認定の認定心電検査技師 1 名を含めた 5 名ほどで行っていますが、解読できないホルターについては医師のアドバイスを受けながら解析をしています。解析結果は SD カードをお預かりしてから概ね 2 日ほどで返却しています。

症例 1



非持続性心室頻拍を認め委託病院に至急連絡したところ、当院に速やかに転院となった症例

症例 2



発作性心房粗細動停止後に約 5 秒の心停止を認めペースメーカー挿入となった症例

このように臨床のお役に立てるよう正確で迅速に解析できるようスタッフ一同日々努力してまいります。これからもホルター心電図以外の事でもどうぞお気軽にご相談ください。

電子カルテが導入されました

昨年9月より電子カルテが稼働いたしました。電子カルテの利点としては情報をデジタル化することによって、データの閲覧や検索などが迅速かつ簡単、また他科との医療情報の共有が瞬時にでき、適確な診断、治療を行うことが出来ます。また業務効率化により、患者様の待ち時間の短縮、検査結果や医用画像などをモニターに表示しながらの分かりやすい説明を行うことで、インフォームドコンセントの充実も図っています。今後も更なる診断向上、患者様の満足度の向上を目指してまいります。



ふれあい健康教室を開催しています

市民の皆様を対象に開催している「ふれあい健康教室」、隔月で第3土曜日の12時から協会病院2階講堂で開催しています。前回で第15回を迎えました。当院の医師によるいろいろな講演により、参加される患者様も増えてまいりました。



今年度は

第12回「高血圧のおはなし」

小樽協会病院 循環器科診療部長 高木 千佳先生

第13回「家庭、園、学校で食物アレルギーにどう対応していくか、一緒に考えましょう」

小樽協会病院 小児科医長 飯田 純哉先生

第14回「肺がんの免疫療法」～免疫チェックポイント阻害薬について～

小樽協会病院 呼吸器内科主任医長 大畑 善寛先生

第15回「糖尿病」～症状もなくしのびよる怖い病気～

小樽協会病院 糖尿病専門外来 山田 安寿香先生

の内容で講演を行っております。

次回は3月7日 柿木滋夫院長が

第16回「今日から使える高血圧対策」で講演を予定しております。

小樽協会病院は、今後もこのような市民の皆様への健康活動を続けてまいります。

第16回 小樽協会病院 ふれあい健康教室
今日から使える
高血圧対策
講師：院長 柿木 滋夫
2020年
3月7日 (土)
12:00～13:00
場所：小樽協会病院
2階講堂
健康教室に参加された方は
当院駐車場は無料となります。
受付でお知らせください。
参加無料も行います！
住所：小樽市南1-1-15
電話：0134-23-6234
FAX：0134-23-6234
Eメール：info@shokai.or.jp
講演 「今日から使える高血圧対策」
12:00～13:00 講師 柿木 滋夫
健康相談 13:00～13:30 2階ロビー エスカレーター横
(栄養・検査・リハビリ等)
小樽協会病院ふれあい健康教室事務局
0134-23-6234 www.shokai.or.jp

編集後記

暖冬により例年になく雪が少ない小樽です。しかしインフルエンザの流行に加え、中国からの新型肺炎の広がり、観光地である小樽は大丈夫かと思ってしまう年明けでございます。皆様、風邪にはくれぐれもお気をつけください

小樽協会病院広報誌“つゆくさ” NO.59

発行：小樽協会病院編集委員会

発行日：令和2年1月

発行人：柿木 滋夫

編集委員長：渡辺 直輝